

—— 聴覚障害者及び視覚障害者のための大学 ——

筑波技術大学ニュース

第 35 号

発行日: 2015 年 11 月

www.tsukuba-tech.ac.jp



国立大学法人

筑波技術大学



筑波技術大学では、筑波技術大学ニュースのメール配信を行っております。ご希望の方は、件名を「筑波技術大学メール配信希望」、本文に、「団体名（個人名）」をご記入の上、筑波技術大学総務課企画・広報係（kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp）までメールにてご連絡ください。

保健科学部附属 東西医学統合医療センター 西棟開設



10月7日、筑波技術大学保健科学部附属東西医学統合医療センター西棟を開設し、診療を開始しました。「あん摩・マッサージ・指圧外来」の新設及びリハビリテーション部門を充実させ、患者様への医療サービスの向上を図ります。竣工式典の様子は2ページをご覧ください。

● 東西医学統合医療センター西棟の竣工式典を挙行

10月7日、春日キャンパスにおいて、保健科学部附属東西医学統合医療センター西棟の竣工式典を挙行了しました。今回増築した西棟は、本学が自己資金により計画し整備したもので、あん摩・マッサージ・指圧外来の新設及びリハビリテーション部門の充実を図ることを目的として、東西医学統合医療センターに増築し、利用者の利便性を図ったものとなっています。



テープカットの様子

式典には、前学長の村上氏をはじめとする来賓の方3名、本学関係者約50名が出席する中、大越教夫学長から「特定分野で世界及び全国的教育・研究を目指す筑波技術大学の医療機関として、教職員が一丸となり、地域医療への貢献並びに学生教育及び臨床研究の質の向上に努め、東西医学統合医療をさらに発展させていきたい」との式辞が述べられた後、テープカット等を行いました。さらに式後には施設見学が行われました。

(視覚障害系支援課統合医療センター係)



施設見学の様子

● 学生の活躍

ブラインドサッカー日本代表

9月2日から7日、「IBSA ブラインドサッカーアジア選手権 2015」が国立代々木競技場フットサルコートで開催され、日本代表選手で保健科学部情報システム学科2年次の佐々木ロベルト泉さんが出場しました。

佐々木さんは主力メンバーとして全6試合に出場し攻守にわたって活躍しましたが、日本代表は6チーム中4位となりリオパラリンピックへの出場権を逃しました。

今大会は敗北に終わりましたがその夢を諦めないで戦う姿勢により、5年後の東京パラリンピックにおいてメダルを目指して戦う本学学生の姿がまぶたに浮かびました。

(保健科学部情報システム学科 福永 克己)



イラン戦に挑む佐々木ロベルト泉さん (15番)

ろうサッカー茨城代表

9月19日と20日の2日間、第49回全国ろうあ者体育大会が京都府山城総合運動公園(京都府宇治市)にて開催されました。

県対抗のサッカー競技では、在校生9名と本学卒業生2名が茨城チームのメンバーとして参加しました。決勝戦で神奈川チームとの熱戦を制し、2001年和歌山大会以来14年ぶりの優勝を飾りました。

キャプテンを務めた産業技術学部産業情報学科3年次の杉本大地さんは「チームワークで勝ち取った勝利。みんながいるからサッカーができると改めて思った。」と今大会の感想を述べてくれました。

(産業技術学部 平賀 瑠美)



茨城チームの集合写真

デフバスケットボール世界選手権大会出場

6月30日、「第4回デフバスケットボール世界選手権大会」の女子日本代表に選出された産業技術学部産業情報学科4年次の橋本樹里さんが大越教夫学長を表敬訪問しました。

橋本さんからは大会に向けての抱負が述べられ、大越教夫学長とバスケットボール部顧問の谷教授からは激励の言葉が送られました。

大会は、7月4日から7月12日に台湾桃園市で開催されました。日本は、予選リーグでアメリカ、ウクライナ、イタリアと、順位決定戦でイスラエルと戦い、10カ国中9位という結果になりました。橋本さんは多くのポイントをあげ、チームに貢献しました。

(聴覚障害系支援課学生係)



学長表敬訪問をする橋本さん（中央）

やり投げで日本新記録、世界大会に出場

7月4日、「第20回関東身体障害者陸上競技選手権大会」に保健科学部保健学科1年次の遠山清人さんがやり投げ(F12クラス)に出場し、49m20を投げて12年ぶりに日本記録を更新しました。さらに7月18日の「日本パラ陸上競技選手権大会」では49m32と、自己の日本記録を更新しました。この記録は来年開催されるオデジャネイロパラリンピックのA標準を突破したので、パラリンピックへの出場が期待されます。

また、日本代表選手に選出され、10月下旬にカタールのドーハで開かれた「IPC2015陸上競技世界選手権大会」に出場しました。初めての世界大会では日本記録の更新や入賞はできませんでしたが、「次は決勝に残って入賞することが第一の目標となった。」と選手として大きく成長した抱負を述べてくれました。

(障害者高等教育研究支援センター 香田 泰子)



日本代表ユニフォーム姿の遠山さん

第8回アジア太平洋ろう者競技大会で銀メダル

10月3日から10月11日、「第8回アジア太平洋ろう者競技大会」が台湾で開催され、産業技術学部産業情報学科2年次の蒲生和麻さんが出場しました。柔道男子73kg以下で銀メダルとなり、2017年に開催される第23回夏季デフリンピック競技大会の出場権を獲得しました。

蒲生さんは、「デフリンピックで活躍できるよう、さらにトレーニングを頑張っていきたい。」と抱負を語ってくれました。今後益々の活躍が期待されます。

(障害者高等教育研究支援センター 中島 幸則)



表彰式でメダルを授与された蒲生さん

パラトライアスロンPT5(視覚障害)で世界ランク7位

保健科学部保健学科3年次の中澤隆さんが、パラトライアスロンPT5(視覚障害)男子の2015年度世界ランキングで7位となりました。2014年度の20位から大きくジャンプアップし、日本人においてはトップの成績です。

中澤さんは、8月にフィリピンで開催された2015ASTCパラトライアスロンアジア選手権では、PT5(視覚障害)男子で優勝し、また、9月にアメリカで開催されたITU世界パラトライアスロン選手権グランドファイナルにおいては、PT5(視覚障害)男子で8位入賞という成績を収めました。

(総務課企画・広報係)



中澤さん（左）と伴走者（右）

● オープンキャンパスを開催

産業技術学部

8月8日、天久保キャンパスにおいて平成27年度産業技術学部オープンキャンパスを開催し、177名の方々に御参加頂きました。

例年と同様に、学科・専攻の説明や体験授業、個別相談、学生寄宿舎をはじめとした施設や学生の研究・作品の公開等を行った他、今年度からの新しい企画として「卒業生との座談会」も開催いたしました。座談会では卒業生3名に、本学を選んだ動機や在学時の勉学・学生生活、卒業後の社会での活躍ぶりなどについて話して貰い、また参加者からも様々な質問を頂くことで、本学で学んだ学生の成長ぶりについてお伝えすることができました。



全体説明会の様子

産業技術学部では、オープンキャンパスの他にも、東京・大阪における大学説明会や、本学における授業見学会（春・秋）、ご要望に応じて聾学校等において開催するミニ説明会等も行っております。

詳細はこちらのQRコードを読み取ってご覧ください。
（産業技術学部の「大学説明会・オープンキャンパス・授業見学会」のページ）



（総合デザイン学科 井上 征矢）



入学試験について説明の様子

保健科学部

8月23日、春日キャンパスにおいて「夏のオープンキャンパス」を開催いたしました。

午前中は、見学希望者が附属図書館、支援機器室、点字印刷室、及び寄宿舎等の施設を班別に分かれて見学を行いました。午後からは、参加者全員が大学会館講堂に集まり、学長の挨拶の後、保健科学部長による本学の概要及び保健科学部の教育内容等について説明が行われました。その後、学科・専攻に分かれての詳細な説明及び体験授業を行いました。



情報システム学科の体験授業の様子

体験授業では、保健学科鍼灸学専攻による鍼やもぐさを使用した模擬治療、同学科理学療法学専攻による内部障害理学療法の基礎実習、情報システム学科によるソートアルゴリズムについての模擬講義などが行われました。授業終了後には、希望者に対する教育相談、教室等の自由見学のほか、在学生による質疑応答コーナーも設けられ、本学部の特色をご理解いただくことができました。

保健科学部では、施設のほとんどを解放する形でオープンキャンパスや、全国各地で大学説明会を実施しております。

詳細はこちらのQRコードを読み取ってご覧ください。
（保健科学部の「オープンキャンパス」のページ）



（視覚障害系支援課教務係）

● 形井教授、藤井准教授がモンゴル社会福祉省優秀賞を受賞

9月3日、保健科学部の形井秀一教授、藤井亮輔准教授が、モンゴル社会福祉省優秀賞を受賞しました。

この賞は、2006年から2010年の5年間、日本財団から助成を受け、その後2015年の現在まで、筑波技術大学学長裁量経費により実施されている「アジア医療按摩指導者ネットワーク（AMIN）」が高く評価され、モンゴル政府より外国人に初めて授与された賞です。モンゴル社会福祉省障害者支援部部長のTumenbayar Batdulam氏より、「視覚障害者向けの按摩マッサージの教育や就労に対する多大な支援の功績をモンゴル政府が認め、今回の賞に繋がった」との挨拶があり、表彰状と胸章が贈られました。



形井教授（左）、大越学長（中）、藤井准教授（右）

受賞した形井教授より「私たち個人ではなく、AMIN全体の活動が評価され、その活動を支える筑波技術大学が受賞したものと考えており、大変感謝している。今後も支援を継続し、互いに協力し発展していきたい」との言葉が述べられました。

（総務課企画・広報係）



社会福祉省障害者支援部部長（左から2人目）らとの記念写真

● 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会御一行が来訪

8月19日、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の佐藤広副事務総長、雑賀真総務局長ら4名が来訪されました。今回の来訪の目的は、パラリンピックの理解促進に向けての情報交換及び施設見学です。

初めに、大越教夫学長から本学の概要及び主に保健科学部について説明があり、その後香田教授との懇談や意見交換が行われました。続いて春日キャンパスの施設見学を行い、情報保障機器や体育館などをご覧いただきました。

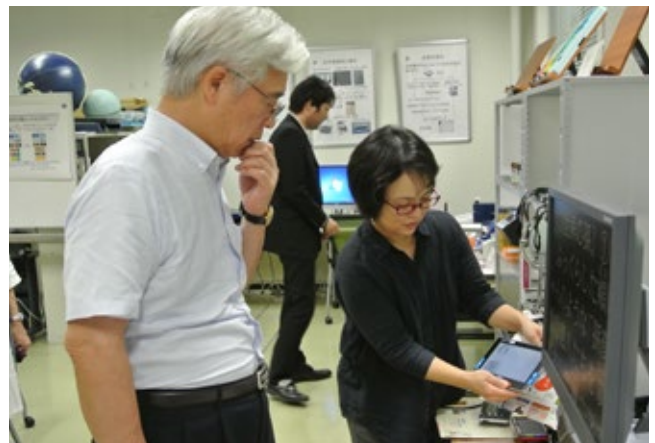
佐藤副事務総長から、「オリンピック・パラリンピックでのボランティア活動に本学学生が積極的に参加されること、選手としてパラリンピックへの出場を期待している」とお言葉をいただきました。

なお、本学は、オリンピック・パラリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取組を進めることを目的に、平成26年6月23日付けで組織委員会と連携大学協定を締結しています。

（総務課企画・広報係）



会談の様子



支援機器の説明を受ける佐藤副事務総長（左）

● NHK 総合「探検バクモン」にて本学が紹介されました

10月28日、NHK総合の「探検バクモン」にて「見えない 聞こえない でもね…」というタイトルで本学が紹介されました。撮影は、お笑い芸人の爆笑問題のお二人、進行役のサヘル・ローズさんにお越しいただき、7月中旬に行われました。

石原副学長の授業の様子や、視覚障害学生とのサウンドテーブルテニス（卓球）対決など、本学が提供する情報保障や、生き生きと学ぶ学生達の姿をご覧いただけたのではないかと思います。

フリートークには、産業技術学部産業情報学科3年の山口賢三さん、総合デザイン学科3年の湯浅友美子さん、保健科学部保健学科4年の栗本尚徳さん、情報システム学科4年の松尾政輝さんと浅野瑞穂さんの5名が参加しました。初めは緊張していたようですが、爆笑問題のお二人が笑わせてくれたり、サヘルさんが優しくリードしてくださってリラックスし笑顔も増え、お互いの意見を聞いたり、深く考えたりしながらの収録になりました。参加した学生は「とても貴重な経験になった。もっと話をしたかった!」と話してくれました。

撮影時の様子を紹介いたします。(写真の掲載については許可を頂いております)

(総務課企画・広報係)



爆笑問題のお二人、サヘル・ローズさん、フリートーク参加者との集合写真



石原副学長の授業に飛び入り参加



サウンドテーブルテニスを練習中のお二人



真剣にトーク中

● つくば市職員対象のユニバーサルデザイン研修を実施

9月24日、つくば市庁舎にて、つくば市職員を対象にしたユニバーサルデザイン研修を実施しました。この研修は、本学とつくば市の連携事業の一つとして、つくば市聴覚障害者協会などの協力を得ながら、平成19年度から開始された取り組みです。

博報堂ダイバーシティデザイン所長の井上滋樹氏によるユニバーサルサービスに関する講演の後、聴覚障害者とのコミュニケーション体験、視覚障害の疑似体験を含んだ窓

口対応、視覚障害・妊婦・幼児連れ・車椅子使用者・高齢者などの疑似体験を含んだ市庁舎探索、体験に基づくディスカッションなどの講座に64名のつくば市職員が参加しました。講座の一部には「産業技術プロジェクトA」の一環として聴覚障害学生による体験講座の立案・実施が取り入れられました。

(学術・社会貢献推進委員会 櫻庭 晶子)



高齢者疑似体験による市庁舎探索の様子



学生による体験講座

● 第15回国際シンポジウム2015を開催

9月30日、天久保キャンパス講堂において、日英逐次通訳、日本語手話通訳、日本語文字通訳、点字資料による情報保障体制のもと、170名超の参加者を得て筑波技術大学第15回国際シンポジウム2015が開催されました。今回のテーマは「障害のある大学生の教育支援 ～欧州における事例に学ぶ～」です。

招聘講演者の一人であるクラウス・ミーゼンベルガー博士は、平成13年6月に本学の協定校となったヨハネス・ケプラー大学（リンツ）の統合研究系准教授であり、統合教育学習支援センターの副センター長です。障害者のためのヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）に着目して教授資格を取得され、現在はITをベースにした支援技術、すべての人のためのeアクセシビリティやデザインに関わる内容について、研究及び教育を行われています。

もう一人の招聘講演者であるペトル・ペナツ先生は、マサリク大学にて、1990年よりコミュニケーションおよび翻訳学理論の教育と研究に従事され、インクルーシブ高等教育に注目、1997年より視覚障害学生のための専門サービスを提供するためマサリク大学障害学生支援センターを設立され、今日までセンター長を務められています。

各講演者からは、技術の進歩による視覚・聴覚障害学生に対する支援内容の変化やその受容の課程、欧州各国における課題等について講演がありました。また講演後、宮城愛美講師より日本における視覚障害学生支援について、白

澤麻弓准教授から日本における聴覚障害学生支援について、簡単な説明があった後、本学国際交流委員会の西岡知之委員長の司会のもと、講演者2名と宮城講師及び白澤准教授をパネラーとしたディスカッションの時間が設けられ、各国での特徴的な取り組みや日本との共通する課題などについて討議し、その後講演内容に関する会場との熱心な質疑応答がありました。

(国際交流委員会委員長 西岡 知之)



招聘講演者らとの集合写真

● 学長対談を行いました

「筑波技術大学に期待すること」をテーマに、全国難聴児を持つ親の会・会長の高屋敷光男様、埼玉県県立特別支援学校坂戸ろう学園教諭で本学卒業生の品田千紘様、全国盲学校 PTA 連合会・会長の川越啓子様、同事務局長の坂本俊二様をお迎えして大越教夫学長と対談を行いました。本学に対する貴重なご意見やご希望を伺うことができ、大変有意義な対談となりました。詳細は別紙にてご覧いただけます。

(総務課企画・広報係)

● 公開講座受講者募集中

「アンチエイジング：

肩に痛みを持つ方へのリハビリテーション」

● 講座内容

肩に痛みのある方を対象として、肩周囲に関する医学的知識や傷害の予防方法について学び、肩の評価などの健康チェックを行い、健康な肩を維持する運動を指導します。

● 募集期間：平成 28 年 1 月 8 日〆切

● 開講日時：平成 28 年 1 月 24 日(日) 10:00～16:00

● 実施場所：筑波技術大学 春日キャンパス

● 募集人数：10 名

● 講習料：3,000 円

＜初心者のための総合 CAD 講座＞

「作って学ぶ CAD とモデリング

(3D プリンタによる立体モデルの作成)」

● 講座内容

CAD を使ってものづくりに挑戦します。

・作って組み立てるアクリル模型

・レーザ加工機の利用

・3次元 CAD とインクジェット式 3 次元モデル製造機

● 募集期間：平成 28 年 1 月 8 日〆切

● 開講日時：平成 28 年 1 月 23 日(土)、24 日(日)
10:00～16:00

● 実施場所：筑波技術大学 天久保キャンパス

● 募集人数：12 名

● 講習料：4,000 円

本学の公開講座の詳細はこちらの QR コードを読み取ってください。



「整形外科領域での腰痛に克つ！

－腰痛を学び、運動と鍼灸で対策－」

● 講座内容

腰痛は日本人のなかで最も有訴者の多い症状です。本講座では、整形外科領域の腰痛について整形外科医、理学療法士、鍼灸師および診療放射線技師が、腰痛の概要、検査、治療方法などについて分かりやすく講義します。また本学医療センターで行っている腰痛に対する鍼灸治療、マッサージなどの手技療法、ストレッチや筋力強化などの運動療法の体験も行います。

● 募集期間：平成 28 年 1 月 12 日〆切

● 開講日時：平成 28 年 1 月 31 日(日) 9:00～15:00

● 実施場所：筑波技術大学 春日キャンパス
東西医学統合医療センター

● 募集人数：30 名

● 講習料：3,000 円

● お知らせ

情報アクセシビリティ・フォーラム 2015 に出展します。

12 月 12 日と 13 日、本学が特別協力をしている「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015」が秋葉原 UDX 他にて開催されます。キャッチフレーズは「音をつかむ！未来をつかむ！」です。

ポスターは本学産業技術学部総合デザイン学科 3 年次の仲田早織さん、湯浅友美子さんの 2 名がデザインしたものが採用されました。

皆様のお越しをお待ちしております。

(総務課企画・広報係)

